

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙No30～

平成27年  5月号 毎月10日発行

一般社団法人日本書字文化協会
代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野2-13-26 第一岡ビル3階

電話03-6304-8212 FAX03-6304-8213

Eメールinfo@syobunkyo.org

ホームページ<http://www.syobunkyo.org>

目次

第4回総合大会実施要項決まる	2
27年度総会は夏以降に延期	3
第5回「仲間」大澤結衣（太田市立薮塚本町小学校6年）	4
北山幼稚園 毛筆授業始まる	6
コラム	
「こころ」（大平恵理・会長）	3
「きのう 今日 あす」（渡邊啓子・副会長）	5
「教学半」（池田圭子・教学参与）	7
「文鎮」（佐藤貴子・指導主任）	8

第4回総合大会実施要項決まる (抜粋)

大会構成 (第4回総合大会個別コンクール名)

	対象	部門
・平成27年度ひらがな・かきかたコンクール	幼児～小3	硬・毛どちらでも
・平成27年度全国学生書写書道展	幼児～大学生	毛筆のみ
	席書の部	会場で書く作品の優劣を競う。
	公募の部	郵送で応募された作品を審査。
・平成27年度全国硬筆コンクール	年齢不問	硬筆のみ
作品締切	ひらがな・かきかたコンクール	平成27年7月31日(金)
	全国学生書写書道展	平成27年9月19日(土)
	全国硬筆コンクール	同上
表彰式	11月3日(月、祭日)、東京都内で行なう	

一部値上げします

参加費 団体出品の1点当たり出品料・参加費 消費税込み>

◇ひらがな・かきかたコンクール一律540円(消費税8%込み)

◇全国学生書写書道展

席書地区大会 幼児～中学 1296円(同)

高校・大学生 1555円(同)

公募の部 幼児・中学生 630円(同)

高校・大学生 882円(同)

◇全国硬筆コンクール

幼児～中学 444円(同)

高校以上 756円(同)

※総合大会の3つのコンクールの出品料(予想額)合計が3000円以下
の場合は、手数料、送料の一部として別途1000円をご負担ください。

※団体審査をした時などの諸割引は「団体応募の手引き」を参照

<個人参加の出品料 消費税込み>

ひらがな・かきかた、全国硬筆は一律1296円(同)、学生展は公募1296円(同)、席書は1782円(同)。

指定課題の統一テーマは「豊かな自然に生きる」

このところ、おおきな災害が続いています。犠牲者の冥福をお祈りしますが、日本がそれだけ自然豊かな国であることの証明とも言えます。私たちは、この豊かな自然に包まれ、幸せに生きていくことを学ばなくてはなりません。大会の3つのコンクールの指定課題の統一テーマを「豊かな自然に生きる」としました。コンクール課題を繰り返し練習する中で、日本の豊かな自然の中で生きている自分を感じていただければ幸いです。(課題は近くホームページにも掲載されます。)



一つの良し、は他はダメ、につながらない

「子どもが学校で、字の書き方が違うと、先生から注意されました。塾で習った通りに書いたのに、どう子どもに言えばよろしいんですか?」。親から持ち込まれる相談に、書塾の先生が悩んでいます。春、新学期は、特に多くなります。

「ひらがなの最後の結びは全てリボン結びでしょ」と注意された子どもも現れました。「ま」、「な」などの字のくるりと丸くなっている部分、ここを結びと呼びますが、その形から、三角のおにぎり結び、リボン結びなどと呼ばれています。その子は、塾で習った通り、三角のおにぎり結びで書いたところ、注意されたのです。これはちょっと、と感じたので「教育委員会か学校の先生に、その指導は不適切ではないか、と言って見てください」とお答えしました。

結果は、学校指導の不十分さ、ということで一件落ち着いたのですが、実は、字の書き方は思想信条と同じく、法の一律強制になじまないのです。それは、別としても、学校教育でも、結びの形はこれだと定めた指導はしないのがふつうなのです。結びは、平仮名なら、その字の元になった漢字の形がもとになりますが、通常、これではなくてはいけない、ということにはされていません。

もっとも、止め、はね、はらいに代表される基礎基本の教えは揺るがせにできません。一方、結びは書きづらく、形がなかなか整わないので、正しいか正しくないのかの極端な指導に陥りがちです。一つの書き方が即、他の書き方を否定するものではない。これこそが書写書道の学びの奥深さを示すものなのです。少し専門的になりますが、同じ字でも楷書、行書、草書と字形が変化するに従って筆順や形が異なるケースもあるのです。

「一つの良し、は他はダメ、につながらない」。現代の子ども達は、違いのある人を排除しがちです。それが、イジメの多発にもつながっているのではないかと思うと、単に結びの話しだとばかり言ってられない気がします。

27年度総会は夏以降に延期

今年度総会はゴールデンウィーク明けの5月10日に予定していましたが、夏以降に延期されました。第1回臨書展審査会の日取りとの調整や日程の取り難い会員が多かった事情によるものです。参加を申し込まれた皆様には大変ご迷惑をおかけしました。日程は改めてお知らせしますが、目下、昨年同様に中央審査会が開かれる9月26日(土)を検討しています。

第5回「なかま」大澤結衣(太田市・藪塚本町小6年)

今回は小学6年生です。小学生といえども結衣(ゆい)さん(12)は書写書道^{れき}10年。書塾「藪塚^{やぶづか}ライセンス学書」を開いている祖母^{そぼ}の大澤幸江^{おおさわゆきえ}先生の手引きで3歳^{さい}から始め、検定・ライセンスの^{かいだん}階段を一步、一步登って来ました。(インタビュアーは編集部、谷口泰三)

—3歳^{さい}から始めたそうだけど、どんなことしてたの？

結衣 最初のころのことは、なんにも覚えていないのです。

—そうだろうね。いま、週に3回教室に来ているんだってね。今日は月曜日だから教育実習^{きょういく}だけど、どう？

結衣 はい。1年生4、5人に教えています。皆^{みな}言うことを聞いてくれて、とても楽しいです。教えていると、自分はどこが分からないか分かって、勉強^{べんきょう}になります。

—教えるは学ぶの半ば^{はんぱ}なりか。教学^{きょうがく}半だ。いいね。1コマ90分。中学行っても続ける？

結衣 わかんない。テニス部に入ろうと思っているし。

—なるほど。3回は無理かもね。

でも、できるだけ頑張^{がんぱ}って両立^{りょうたつ}させてね。

結衣 はい。

—(藪塚^{やぶづか}ライセンス学書では、ライセンスを取得したら、その証書^{しょうしょ}のコピーを塾^{じゅく}の玄関^{げんかんと}にかざります。その写真^{しやうしん}が月間書字文化4月号の東西南北^{とうしんなんぺい}で紹介^{しょうかい}されました)結衣ちゃんも飾^{かざ}ってもらったことある？

結衣 あります。

—ここに、結衣ちゃんの履歴^{りれき}書^{しよ}があります。

(書文協^{しよぶんけい}では、検定受検^{けんていじゆけん}の成績^{せいせき}や大会入賞^{たいかいにゅうしょう}暦^{れき}などの個人情報^{こじんじやうほう}を記録^{きろく}してあります。世間^{よこ}でライセンスや段・級^{だんけい}が認め^{みと}られるためには、いつでもきちん^{しやう}と証明^{しょうめい}されなくてははいけません。また、書を生涯^{しやうがい}教育^{きやういふ}としていただくためにも長い記録^{きろく}を残して行きます。書文協^{しよぶんけい}が、塾^{じゅく}の後ろ^{うしろ}から生徒^{せいと}さんを支^さえていくためです。塾^{じゅく}やその人の承諾^{じやうやく}なく情報^{じやうほう}は公開^{こうかい}されることはありません。結衣ちゃんの場合^{ばあひ}も承諾^{じやうやく}を得^えて公表^{こうひやう}しています)硬筆^{こうひつ}受験^{じゆけん}はかなり苦し^{くるしみ}んできた様子^{ようす}が、この履歴^{りれき}書^{しよ}から分^わかりますね。でも硬筆^{こうひつ}楷書^{かゐしよ}検定^{けんてい}は1級^{いっけい}だね。毛筆^{もうひつ}はすばらしい。毛筆^{もうひつ}半紙^{はんし}は検定^{けんてい}準^{じゆん}5段^{ごだん}、ライセンスは中級^{ちゅうけい}準指^{じゆんしゆ}導^{どう}者^{しや}、毛筆^{もうひつ}行書^{ぎやうしよ}Iは検定^{けんてい}準^{じゆん}3段^{さんだん}、ライセンスは初級^{しよけい}準指^{じゆんしゆ}導^{どう}者^{しや}だね。立派^{りっぺい}です。検定^{けんてい}・ライセンスをや^やってきて、何^{なに}が良^よかった？

結衣 努力^{どりょく}する心^{こころ}が身^みにつきました。

—うーん。模範^{もはん}解答^{かいとう}だ！！



(筆者の感心に大澤幸江先生が言いました。「きっと聞かれると思って考えてきたのでしょうね。でも、何回もチャレンジして、確かに結衣は頑張りました。ライセンスはすごいですね」。)

きのう

今日

あす

書文協副会長 渡邊啓子

「世代」



4月、5月は地元の大祭が続きます。

新年度を迎え、桜に心なごまされ、大祭が近づくと気持ちも弾みます。我が家も山車を迎え賑わいました。大人・子ども入りまじり、一瞬で熱気に包まれました。

自分の時代もそうでしたが、子どもたちは日差しに頬を染め、元気いっぱい山車を引っ張ります。その背中のリュックサックには溢れるば

かりのお菓子。子どもたちも主役。今も昔も変わらず流れている時を感じました。

最近特に感じるのは、同世代の活躍です。会長にも坐し、それぞれの地域の祭り連を背負っています。事前の練習、祭典準備、当日の仕切り、片付け、それぞれが役を担い果たしているのです。

同級生男子が昨年度、二期四年の任期を終え、会長を交代しました。その彼らを見ていて気づいたのは、さらに若い層が自主的に動いていることです。

彼らは「迷惑かけてすみません。」という言葉の後には、「迷惑というのは、会長や顧問にまで影響が及ぶ時のことを言うんだ。迷惑には入らない。」等と、会長たちの前でやり取りをしています。各地域応援にかけ合う状況もありますが、その傍らで若い人たちが育っているのも痛感します。

そして皆さんが持っているのは、「とてもいい経験や勉強をさせてもらって、この恩返しをしたい。」という気持ちです。

祭に限らず仕事の話などからも垣間見られるのですが、何がそうさせるのでしょうか。自分がどうすべきか、置き換えてみたりしますが、同世代の活躍からも学ぶものがとても多いです。

北山幼稚園 毛筆授業始まる

北山幼稚園（山縣迪子園長、東京都府中市西原町3-3-4）が今年度、年長児103人（うち女児52人）の正課授業で毛筆指導を取り入れることになり、基本的に月2回授業を行います。書文協は社会貢献事業としてこのプロジェクトに協力することにしており、全日本書写書道教育研究会理事長、長野秀章・東京学芸大学名誉教授（元文部科学省教科調査官）のアドバイスを得ながら指導を進めます。

授業は池田圭子・書文協教学参与が担当。4月21、28日に新年度出だしの授業が行われました。同幼稚園では文字を書くことに力を入れており、硬筆については、「えんぴつの国・ペンシリア」がすでに授業をしています。毛筆1回目授業は、硬筆担当講師の田中直子先生も招いて始められ、子供たちは、図らずも字を書く道具に硬筆と毛筆の2種類があることを最初から学びました。

「えんぴつ筆」で水で書く

同園は教室スペースが自由な円形校舎になっています。103人の年長児を6班に分け、1班（17人平均）に20分ずつの指導が展開されます。先生方に引率され指導場所に移るまで、園児たちは別の学びをしている形です。

2回の授業は、長野教授推奨の「えんぴつ筆」を使ってスタートしました。えんぴつ風の軸

に毛先が付いている水筆で、関西の業者が開発しました。水筆と言うのは、墨の代わりに水を付けて専用マットに書くと黒く字が書けて、すぐに乾いてまた書けるもので、いろいろな筆とマットのセットが売られています。軟筆とも言われるもので、幼児が周囲を汚さないで書くには適しています。



出だしの授業は、正しい姿勢を取る、筆に慣れる、線を引く形を取れることに重点が置かれました。「左手ポン」と池田講師の掛け声に合わせて園児らは左手を所定の位置に置き、赤いシールが張られた右親指と人差し指に筆を挟んで「親指の赤丸が見えなくては駄目」と注意を受けながら、筆を使いました。

子どもたちは、真剣そのもの。山縣園長は「授業になってますね」と感嘆しました。来月から7月までは書文協ブランドの中筆「恵風3号」を使って水書き。その後は墨で実際に文字を書き始めます。「なんとかします」と、池田講師はまだ慎重。年度末には作品展が予定されています。



いつも美しい文字を

4月を過ぎるこの時期、お教室に見学や体験にいらっしゃる親子が増えてきます。保護者の方のほとんどの方が、「ノートの字が汚くて、なんとかしたいんです。」とか、「普段書く字をもう少しきれいにしたくて」と、おっしゃいます。書写を習っている方々も、まずはそのような気持ちで始めた方が多いのではないのでしょうか？

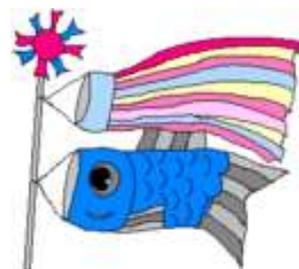
ところが残念なことに、書写を習って数年、全国大会で入賞も度々、毛筆、硬筆として書いている時は、本当に上手な字を書いているにも、ノートの字はまるで別人が書いたかのような字を書く方も中にはいるようです。実は私も昔はそんな一人でした。

小学6年生冬のことです。年賀状をボールペンで書いて送ったところ、同級生に「圭子は筆は上手だけど、ペンは下手なんだね。」と言われて、かなりのショックを受けました。私たちが小学生の時代には、まだ硬筆の練習というものは、特にやってはいませんでした。それでも恥ずかしい思いをしました。それから、普段の字も上手に書こうと努力したものです。

書写として硬筆を書く時には、かなりゆっくりと書く方が多く（これはこれからの書文協の課題ではありますが）、実用ではそんなにゆっくりと書くことが出来ません。それが普段の字があまり上手に書けないという理由のひとつになっているようです。

書写が上手な方は、字形のとり方をマスターしているということですから、その字形をある程度の速さで書いても書けるという自信をもって普段の生活に生かして欲しいです。

ノートの字や、普段の字で美しい文字を書くことが、その人の書写の力をアピールする最大の見せ場になることでしょう。





風、陽の光り…五感で感じる素晴らしさ

先日、お墓参りで岩手県奥州市に帰省してまいりました。朝早く出発し午後一にお寺にご挨拶とお墓参りを済ませ、次の日の朝一に出発し自宅に戻るといふ嵐のようなスケジュールでした。

そんな中でも少し時間が取れたので、世界遺産になった中尊寺金色堂に行ってきました。小さい時に足を運んだことがありましたが、キラキラしたお堂がガラス張りの中に収められているという記憶しかありませんでした。歴女とまではいきませんが、このような場所に妙に興味をわいてくるのです。どういう背景でどういうものが収められているのか、もう一度自分の目で見てしっかりと頭の中に刻み込みたかったのです。

まず金色堂まで行くのに目の前に立ちはだかったのが山道……。戻ってくるご年配の方は足が痛い、膝が痛くてもう動けないなどと話しています。この先どんな道のりになるのか少し不安でしたが、三分の一まで差しかかると、眼下に古戦場が広がり、とても爽やかな風が吹いてきました。金色堂にたどり着くと、奥州藤原家の栄華の象徴がたくさん展示されていました。お堂の近くには松尾芭蕉が詠んだ「五月雨をふり残してや光堂」の碑が芭蕉の像と一緒にありました。

情報がテレビやネットなどを通じて入ってきて、とても便利な世の中です。昔とは風景は変わってしまったかもしれませんが、同じ場所、同じ空間、時を超えて見聞きし歩き、肌で感じていると思うと、自分の五感を使って感じとることはとても素晴らしいことだと感じた1日でした。

ただ1つ心残りなのが御朱印をもらわなかったこと。次回行く機会があれば必ずもらおうと思います。

